

伊達の散歩道

ほばら編

DATE CITY
WALKING 2



伊達市商工観光課

やさしさと自然の温もり
ふくしま観光圏

[福島市・相馬市・二本松市・伊達市]

伊達氏の
足跡を辿る

歴史とくだものの郷 ほばら



保原町は、東に名峰霊山、西には銀山として栄えた半田山を望む伊達市内のほぼ中心に位置します。

春の桜のシーズンを追いかけるように、地元農産品の主力でもある「桃」の花が満開になります。畑一面が桜よりも濃いピンク色に染まる様はまさに桃源郷。

夏にはその「桃」にちなんだイベントも行われ、特に「桃の市」と銘打った桃狩り体験や、風光明媚な市内のマラソンコースを走る「伊達ももの里マラソン大会」は県内外から多くの参加者が集います。



①奇祭・つつこ引き祭り……………

(厳島神社)

阿武隈急行線保原駅より北西へ約10分歩くと厳島神社があります。毎年3月の第1日曜日に開催されるこの祭りは、下帯姿の男衆が3組に分か



れて、重さ800kgのふかしたもち米を入れたつつこ(大俵)を引き合う、約280年続く勇壮な祭りです。

江戸時代中期、凶作に苦しむ人々に、時の梁川藩主であった松平氏が種籾を分け与えてくれた事に感謝して始まったとも、豊作や市場の盛況を占うために始まったとも伝えられています。

②桜の名所・薬師堂……………



阿武隈急行線保原駅より北へ約10分歩くと、右手に「あ、うん」の仁王門が出迎えてくれます。現在の薬師堂は文化4年(1807)に再建されたもので、堂は四間四面の唐様宝形二重垂木造りで、重厚な向拝の下に龍や象などの彫刻が施されているところが壮観です。

柱間は正面のみ中央が2間、その両側を1間2分半、他の3面は全て1間半となっています。仁王門、本尊薬師如来像、日光菩薩、月光菩薩、十二神将、仁王像など市指定文化財となっています。



③明治の文化を伝える・旧亀岡家住宅……



阿武隈急行線大泉駅から東へ10分、保原総合公園の中に建つ「旧亀岡家住宅」は、文明開化以降の明治大正の時代、欧米の建築デザインに日本の職人が伝統技法を取り入れ建築した建物です。

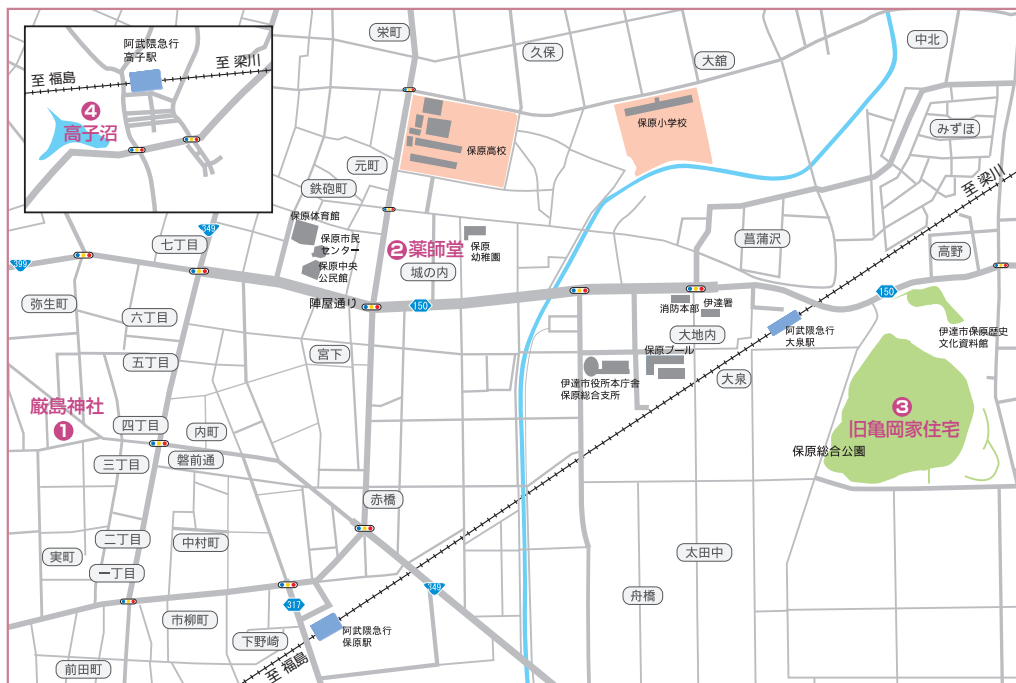
外観は赤い屋根瓦と赤銅色、窓枠が白といったモダンなデザインですが、内部は純和風の書院造りで、建築材には近くを流れる阿武隈川の「埋もれ木」も使われています。床の間の亀や鶴の彫刻、

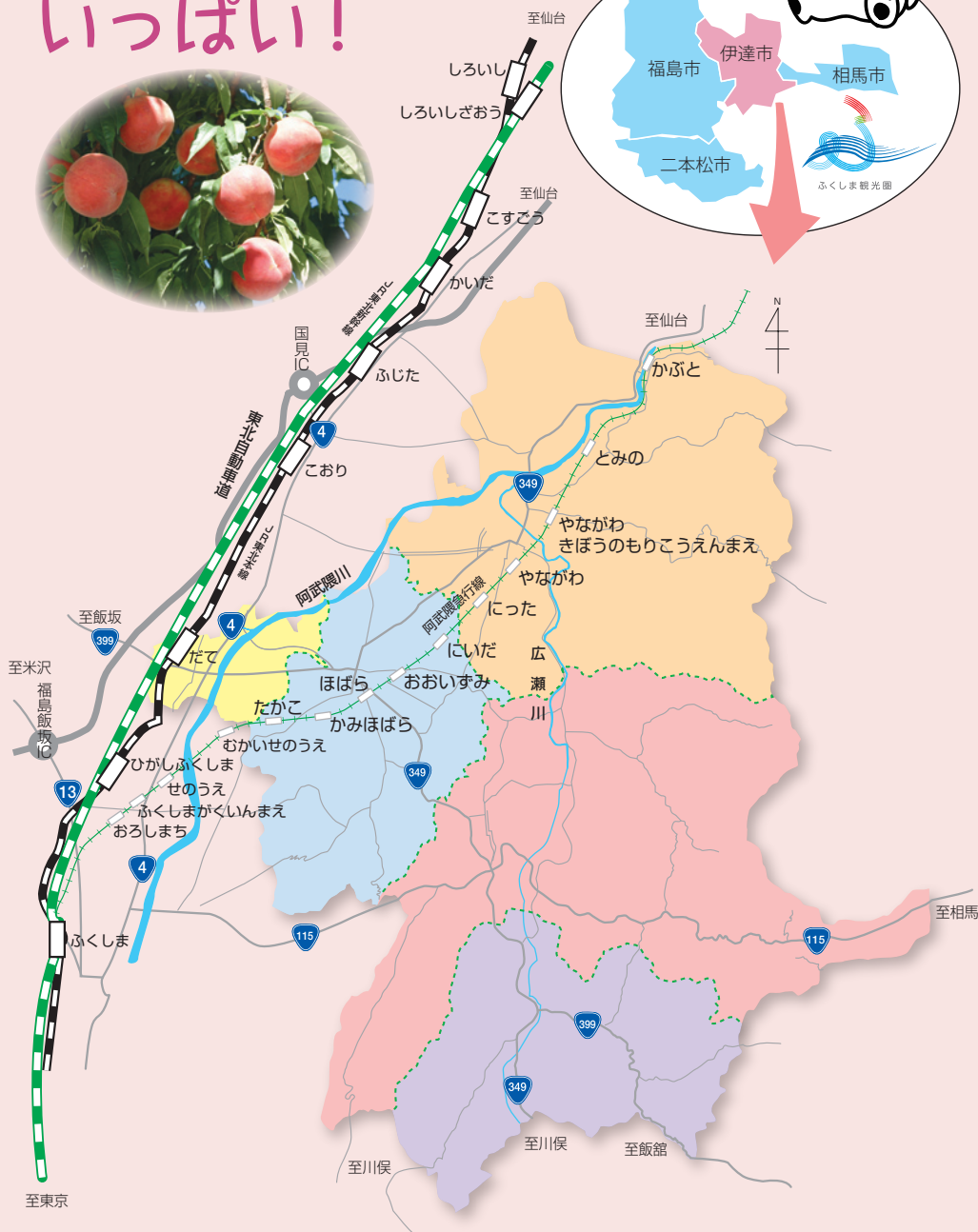
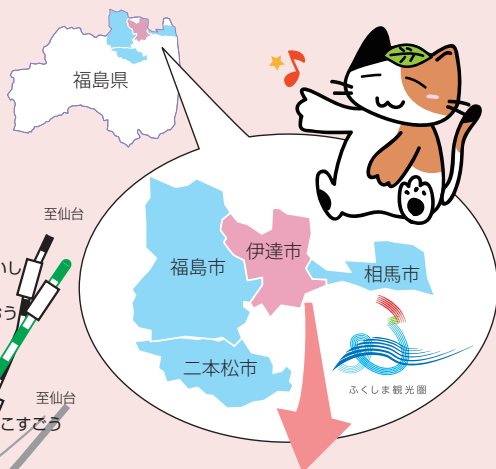


欄間の松竹梅の透かし彫りといった「和」の優れた技法もふんだんに盛り込まれた、当時の匠たちの心意が伝わる建築物です。同じ公園内には地域に伝わる歴史資料や文化資料を集めた「保原歴史文化資料館」もあり、伊達の郷の歴史や暮らしを知ることが出来ます。

④伊達政宗の金山伝説残る・高子沼 ………

高子沼は天正19年(1591)、伊達政宗が豊臣秀吉に伊達郡を召し上げられた折、金鉱石の精錬所跡を隠すべく土手を築いて沼としたという伝説があります。沼の周辺の山々には金鉱山の坑口が今も残り、昭和初期には高子沼の底から中世のものと見られる鉱石粉砕用の石臼や廃鉱石が多数出土しました。かつて、この場所に金鉱石の精錬所があったという伝説を事実が裏付けた場所です。





伊達の散歩道

ほばら編

～高子二十境めぐり～

～伊達氏発祥の地～

戦国時代、独眼竜政宗として天下にその名を轟かせた伊達政宗のルーツが、ここ伊達市保原町高子地区にあります。

さかのぼる事、奥州征伐が行われた文治5年(1189)、源頼朝に従軍した常陸国の中村一族はこの戦いでの功績として頼朝公より伊達郡を賜りました。それを機に氏を「伊達」と称することとなりました。これが伊達氏の始まりです。

伊達氏初代朝宗は高子岡館に城館を構え、鎌倉の鶴岡八幡宮を勧請したそうです。今も残る小高い山に鎮座する「亀岡八幡神社」は、春に咲き誇る桃の花から始まる、伊達の郷の四季をゆったりと見下ろしています。



～もう一つの歴史～

漢文学者・熊坂霸陵と高子二十境

伊達市保原町上保原地区には、難しい漢字の字名が20程残されています。それは「高子二十境」と呼ばれ、江戸時代中期の漢文学者・熊坂霸陵が、旧高子村を中心に景勝地を20箇所選び、漢詩を詠んで自ら楽しんだことに由来します。

熊坂霸陵は先代から続く裕福な豪商の家に生まれ、幼少の頃から学問に長じていました。文化の中心は上方から江戸へ移り、伊達の郷も、養蚕や

御城米を江戸へ運ぶ阿武隈川の舟運が栄えた時代でした。そんな中、熊坂霸陵は邸宅から望める風光明媚な高子周辺を散策しながら、中国の長安(現在の西安)の東に位置する「輞川二十境」を做して20箇所の景勝地を名づけたようです。熊坂霸陵の死後の天明8年(1788)、息子台州が父の追悼集として熊坂家の由来や熊坂霸陵の業績、二十境の位置、漢詩、谷文晁が描いた図をまとめ、「永慕編」を編纂出版したことで高子二十境が全国に広まる事となりました。

現在は、地域住民の活動も手伝って、史跡案内板が整備されるなど、歴史と漢文、くだもの畑を眺めながら散策できる歩いて楽しむ観光地となっています。

(高子二十境の名称の読みは一例です。)

はくうんどう ①白雲洞

阿武隈急行線高子駅から東へ10分ほどブドウ畑の合間を歩くと、鎮守の淡島神社が見えます。その横の、小高い丘の参道には庚申塔が並び、今も建碑が続く参道を上ると「白雲洞」です。奇岩の岩穴には薬師如来像が祀られています。



②伊達氏発祥の地・高子カ岡と丹露盤



白雲洞から線路の横の農道を西へ向かうと見えてくるのが、伊達氏発祥の地高子カ岡、現在は「亀岡八幡神社」が鎮座しています。その頂上にある景勝「丹露盤」からは眼下に広がる伊達の郷の風景が楽しめます。丹露盤は山を下り、西北裏から眺めると断崖の様を見ることが出来ます。



③ 熊阪家墓所

丹露盤から下り西に向かう途中には熊阪家墓所があります。高子の三学者、覇陵・台州・磐谷の親子三代の墓碑が立っています。



④ 不羈坳

中央の小丘が「不羈坳」左に続く小丘が「長嘯



嶺」。熊阪覇陵が設定した「不羈坳」はその間のくぼ地のようで、案内碑も設置されています。

⑤ 拾翠崖

「拾翠崖」は高子沼の上を経て辿りつくのでこの付近であろうと推測されています。水面に映る空や木々の緑がさらに景色の美しさを際立たせます。



⑥ 龍脊巖

阿武隈急行線上保原駅から南へ歩き、道標に導かれて「龍脊巖」にたどり着きます。春には桃源郷の一望が素晴らしいです。



⑦ 玉兎巖

急な鉄梯子を登り、山道に入ると「玉兎巖」に着きます。標柱の磐谷の漢詩が楽しめます。

さらに尾根づたいに遍照原、走馬嶺への山道では、両側に開ける眺望が楽しめます。



高子二十境ウォークコース



距離の目安

3km 5km 7km

も歩くことができます。

自由に組み合わせてお楽しみください。

● 高子二十境 (○ 標柱無し)

上保原小

阿武隈急行・上保原駅

至 梁川

こしょうきゅう
古樵丘

はくうんどう
白雲洞
1 淡島神社

さいしがい
採芝崖

ぎょくとがみ
7 玉兔巖

りゅうせきがん
6 龍脊巖

首塚

受門寺祀

うぶざん
禹父山

へんしょうげん
遍照原

しょうきはん
将帰阪

高子二十境ウォーク案内連絡先

- | | | |
|------------|------|----------------|
| ・流町地域づくりの会 | 小林耕喜 | ☎ 024-576-3397 |
| ・保原町文化財保存会 | 松本征一 | ☎ 024-575-5298 |
| ・上保原地区体育協会 | 佐藤伍郎 | ☎ 024-576-4202 |

お問合わせ

- ・伊達市観光物産協会 (伊達市産業部商工観光課内)
☎ 024-577-3175